



コンサートがもっと楽しくなる…♪

# オーケストラの楽器たち①～弦楽器～

平塚フィルハーモニー管弦楽団

升水 洋

♪「平塚フィルハーモニー管弦楽団」は平塚で唯一の市民管弦楽団です♪コンサートの楽しみ方を誰よりも知っている「平フィル」の皆さんに、オーケストラを構成する楽器を分かりやすく紹介してもらいました♪その個性豊かな楽器たちを通して、オーケストラの世界とその魅力を味わっていただきます♪

**シンフォニーオーケストラ**には様々な種類の楽器が使われています。大きく分けて弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器、の4つのグループに分けられますが今回は弦楽器についてご紹介しましょう。

オーケストラで使われる弦楽器は、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの4種類です。



左から ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス  
平塚フィルの弦楽器奏者の皆さんです

大きくて張ってある弦の長さが長いほど低い音が出るので、普通オーケストラでは大きなコントラバスとチェロが低音域、ヴァイオリンよりちょっと大きいヴィオラが中音域、ヴァイオリンが中音域から高音域を担当しています。

上の写真でヴィオラがヴァイオリンよりちょっと大きいのが判るといいのですがどうでしょうか。

細部の形は若干異なりますが、基本的な構造は皆同じです。

ところで、これらの弦楽器の構造で特徴的なのは「魂柱」(こんちゅう)といわれる柱です。似たような形の楽器でもギターやマンドリンなどにはありません。



F字孔から中を覗くと魂柱が見えます

魂柱は胴体の表板と裏板の間に立っていますが接着されているわけではありませんのである程度場所を移動させることができます。標準的な位置はだいたい決まっていますが、その立っている場所を微妙に移動させることによって楽器の音色が変わってきますので完成した胴体に魂柱を立てる作業はたいへんデリケートで経験の必要な難しい仕事です。



表板はもみの木、また裏板に使われるかえでの木はきれいな木目をもっていてニスを塗るとその美しさがいっそう引き立ちます。

さらに先端の渦巻きは音には直接関係ありませんがその出来映えは製作者の技量やセンスを表している重要な部分です。



そして、音を出すにはもう一つ大事なものがあつね、それが「弓」です。

木の部分はブラジル産のヘルナンブーコ材、張ってある毛は馬の尻尾の毛です。



さて、これらの弦楽器がどんな音を出しているか？皆さん、ぜひコンサートに足を運んでいただいで確かめてみてください。

